

研究機関名：旭川医科大学

承認番号	(記入しない)
課題名	炎症性腸疾患患者に対する看護師の就労支援に関する実態調査
研究期間	(実施許可日) ～ 2023年 12月 31日
研究の対象	「炎症性腸疾患患者に対する両立支援に対する実態調査」(承認番号 C22101)で既に実施したアンケート調査で回答した、旭川医科大学病院、JA 北海道厚生連 旭川厚生病院、市立旭川病院、日本赤十字社 旭川赤十字病院、JA 北海道厚生連 遠軽厚生病院、名寄市立総合病院、町立中標津病院、富良野協会病院の看護師の方。アンケートの2次利用になります。
利用する試料・情報の種類	<input type="checkbox"/> 診療情報 (詳細：) <input type="checkbox"/> 手術、検査等で採取した組織 (対象臓器等名：) <input type="checkbox"/> 血液 <input checked="" type="checkbox"/> その他 (アンケート調査結果)
試料・情報の管理について責任を有する者	旭川医科大学 学長 西川 祐司
研究の意義、目的	<p>炎症性腸疾患 (IBD) は、難治性腸炎の総称で、主にクローン病 (CD) と潰瘍性大腸炎 (UC) を指します。IBD の発症年齢は若年であり、根治的な治療法が無いことから、生涯にわたって疾患と付き合っていかなければいけません。そのため、様々なライフイベントによるストレスを受けやすく症状増悪の関連も指摘されています。特に就労している IBD 患者は、腹部症状のために就労に影響が生じている場合でも、職場に病名を隠しているケースもあり、セルフケアを実践するための看護支援が重要であることも報告されています。様々な疾患で、このような就労支援の必要性が述べられている一方で、IBD 患者での就労支援の現状は明らかになっていません。これまでに私たちは、IBD 患者へのアンケート調査で、食事や治療、生活習慣、精神面に対する看護支援を受けていたと感じているが、仕事や経済面、家庭のことに対して看護支援を受けたと知っている人は少ないということを明らかにしてきました。この研究から得られた IBD 患者のニーズを満たすために、どのような就労支援が必要であるのかを明らかにする必要があると考えています。</p> <p>そこで、本研究は IBD 患者に対する医療者の就労支援の実態を明らかにし、IBD を抱えながら就労している患者が充実した生活を送るために、病棟看護師と外来看護師が実施すべき就労支援について明らかにすることを目的としました。</p>
研究の方法	アンケート調査により得られた回答を単純集計します。さらに、アンケートの自由記載から得たデータを質的に分析します。分析結果の信頼性を高めるため、質的研究の経験のある看護師に確認及び共有を繰り返し行う。また IBD 患者数の多い基幹病院と地域中核病院での違いを明らかにします。

その他	
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、知的財産の保護に支障がない範囲内で研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、本研究は「炎症性腸疾患患者に対する両立支援に対する実態調査」において実施されたアンケート調査を用いた後ろ向き研究となります。無記名アンケート調査のために個人の特定は困難であるため、当該データを本研究に使用すること等について同意撤回はできない事をご理解ください。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先： 旭川医科大学 内科学講座 病態代謝消化器血液腫瘍制御内科学分野 〒078-8510 北海道旭川市緑が丘東2条1丁目1-1 Tel: 0166-68-2462 (AM 9:00~PM 17:00) Fax: 0166-68-2469</p> <p>研究窓口： 地域医療支援および専門医育成推進講座 特任講師 上野 伸展</p>